

近江神宮

宮司

佐藤 久忠氏

Interviewer

頭取 大道 良夫

# 近江神宮

近江神宮の歴史を語る

## 神社に詣でて心を清める風習は 清廉を尊ぶ日本人が育てた伝統文化。

近江神宮は全国に16社しかない勅祭社の一つ。昭和の創建ながら春日大社や出雲大社と同様の格式を持つ。この近江を代表する神域は、大津の街が生まれた起源と深く関わり、いまも滋賀の発展を担っている。



近江神宮 宮司  
佐藤 久忠(さとう・ひさただ)氏

1935年、秋田県生まれ。59年、國學院大學神道専攻科卒業。明治神宮の禰宜(ねぎ)、教学部長を経て、88年、近江神宮宮司に着任。社会福祉法人近江神宮仁愛会理事長、財団法人天智聖徳文教財団理事長、近江時計眼鏡宝飾専門学校校長等を兼務。

### 近江の発展につながった 大津宮ゆかりの神社

大道 ● 新年明けましておめでとうございませう。元日の午前0時、厳かに打ち鳴らされる新年初太鼓の響きの中で年が改まるとともに、大勢の参拝者でいっぱいになる近江神宮の初詣風景。湖国の初春を飾るにふさわしい華やいだ雰囲気にも包まれます。産業・文化・学芸の神様として崇敬を集める近江神宮には、県内企業の方々も初詣して一年間の弥栄を祈念されるとお聞きしています。私たち滋賀県民にとって、近江神宮は格別の存在であり、滋賀全体を見守っておられるように感じています。

佐藤 ■ そうお思いの方が多くおられるのはありがたいことだと感じています。当社は宮中より勅使が来られる県内唯一の勅祭社であることに加え、ご祭神が近江大津宮を造営された天智天皇であることも大きな理由だと思われまふ。大津宮は別名「志賀の都」と歌われています。ように、滋賀県の発展の礎となりました。

大道 ● 飛鳥からの遷都の理由は諸説ありますが、友好関係にあった百済が新羅と唐の連合軍に攻められ、そこに援軍を送ったものの白村江で敗れ、新羅や唐がわが国にも襲来するという危機感と関

連しているようですね。

佐藤 ■ この国難に際して、天智天皇は湖と山に囲まれた要害の地である大津への遷都を決断されたとの説もありまふ。時は667年。琵琶湖の眺望も美しいこの地に大津宮が築かれ、ここで正式にご即位なされました。また、祖国滅亡により渡来した百済の先進文化が高いレベルで開花しました。そんな往時の大津に思いを馳せてみてください。大津の街や滋賀の地への愛着がこれまで以上に深まるはずませう。

大道 ● 滋賀に生まれ育った身として誇らしいのは、古代朝廷による最初の法令とされる近江令がこの地で施行されたことませう。佐藤宮司がお話しされた渡来

人との交流といい、法治国家の基盤整備といい、「国の骨格づくり」がこの大津で始まったことを、私たちはもつと誇りに思っています。こんな歴史認識にこそ、湖国の未来を紡ぐヒントがあるように思えます。

### 滋賀県民の熱い思いが 近江神宮の創建につながる

佐藤 ■ 天智天皇の遷都から近江の発展が始まったという認識は、地域の人々に脈々と受け継がれ、1908(明治41)年の大津市制10周年を機に、滋賀県民の間から大津宮跡に天智天皇を祀る神宮の創建運動が高まり、昭和になつてから近江神宮創建のご勅許を賜

ることになります。当時、当社創建に寄せる国の思いは並々ならぬものがあり、1940(昭和15)年のご鎮座に先立つ構想では、明治神宮に匹敵する広大な境内地を有し、琵琶湖を一望する高台に社殿や楼門を広げる壮大なプランだったようませう。

大道 ● 近江神宮の創建はある種の国家プロジェクトだったわけませうね。

佐藤 ■ その後、激動の時代の中で初期構想は遂行されなかつたのですが、建築美への思いを凝らして建造された社は美しく、建築家など専門家の方からは「希に見る名建築」と称賛されています。

大道 ● 神社建築には大社造り、春日造りなどさまざまな様式がありますが、近江神宮の建築はその枠ではなく、独自の様式で、近江造りとも昭和造りとも呼ばれているようませう。近代神社建築の代表作と伺っています。

佐藤 ■ 外拝殿と内拝殿を中庭で隔てて、周囲に回廊を配する空間構成の優美さ。回廊に連なる細めの丸柱等への配慮や、曲線美によって醸し出される繊細な情緒。内外拝殿に設けられた絢爛たる格天井。細やかな美意識が細部にまで凝らされていますので、ご参拝の折にはその美しさもお楽しみいただければと思ひます。



朱色が美しい楼門を背景に



概要

## 近江神宮

■所在地/大津市神宮町1-1

■創建/1940年

■ご祭神/天智天皇

■ご神徳/時の祖神、開運・導きの大神、  
文化・学芸・産業守護

■参拝時間/6:00~18:00

■最寄駅からの所要時間/

・JR「大津駅」から徒歩20分、タクシー3分

・京阪電車「近江神宮前駅」から徒歩9分



## 『ちはやふる』の聖地は 大津の観光まちおこしを担う

大道●境内に多くの句碑や歌碑がたえず風情にも心が洗われます。私が特に好きなのは、柿本人麻呂が詠んだ「淡海あかみの海 夕波千鳥なな汝が鳴けば 情こころものに古思いにしへほゆ」の歌碑で、この地から望む琵琶湖の儂はかなげな夕景が目に浮かんできます。歌といえば、天智天皇が詠まれた「秋の田のかりほの庵いほの苦くるしみをあらみわが衣手は露にぬれつつ」の歌が、13世紀初めに藤原定家が編んだ「小倉百人一首」の第一番に選ばれていることから、近江神宮は「歌かるたの聖地」として崇敬を集められ、それにちなんだ「競技かるた」も盛んに行われています。

佐藤■近江神宮のかるた行事は、1月のかかるた名人位・クイーン位決定戦、かるた開きの儀を執り行う近江神宮かるた祭、高松宮記念杯 近江神宮全国競技かるた大会に始まり、2月には県のかかるた大会、3月は小・中学生、7月は全国高等学校かるた選手権、8月は全国大学かるた選手権大会など、年間を通じてさまざまな大会が催され、境内は若い熱気であふれます。

大道●競技かるたを題材にした少女漫画『ちはやふる』のブレイクによって、競技か



「歌かるたの聖地」として崇敬を集める



天智天皇が設置された水時計にちなんで、毎年「時の記念日」に行われる「漏刻祭」

佐藤■時の流れは137億年前に宇宙が誕生した時から現在に至るまで1秒も狂いませぬ。その揺るぎなさや概念はまさに論理思考の根幹であり、社会文化発展の源であると考えます。人類は歴史の中で科学技術を生み出しましたが、平和な世の中をつくるためにも、この「時の大切さ」を見直して科学技術を競争に使わないという考えにつながっていかばと考えています。

## 日本人の心に宿る 「敬神崇祖」の教え

大道●深遠なお考えですね。近江神宮境内にある「時計館宝物館」ではわが国最古の懐中時計や貴重な和時計など2300点が収蔵されています。さらには、機械時計の技術等を教える「近江時計眼鏡宝飾専門学校」を境内に設け、

るたが一躍若い世代の注目を集め、作品の舞台として登場する近江神宮がファンにとつての「聖地」にもなったことから、観光まちおこしの気運が盛り上がっています。2012年には、びわ湖大津観光協会等を中心に「ちはやふる・大津」キャンペーン実行委員会が設立され、京阪電車が石山坂本線でラッピング電車を走らせるなど、熱心な取り組みが続いているそうです。

佐藤■当社で行うかるた競技の参加者も3倍くらいに増えています。競技会場に充てている境内の会合・宿泊施設、近江勸学館だけでは開催できなくなり、小学校の体育館など周辺施設をお借りするような状況です。仮設会場用に昼をレンタルするのにもひと苦労。大勢のかかるたファンが「歌かるたの聖地大津で競技したい」と殺到される様子に驚いています。

## 人間を正す「時」は 社会や科学の発展につながる

大道●境内で「ちはやふる」名場面総選挙・複製原画展が催され、ヒロインの袴姿コスチュームを貸し出されるなど、ブームの中心地にふさわしく大津の観光まちおこしに貢献されておられます。このブームはまだ続きそうですか。

佐藤■実写版の映画が今春公開されるから、さらに加熱すると思います。昨



時計館の展示用漏刻の前で

て私たちの本能のようなものだと感じます。ただ、現代を生きる私たちにとつて、神道が説く「清く明るく正しい」理想の生き方はなかなか実現できません。

佐藤■日本人は清浄、清廉を尊び、心身の不浄を浄化する「禊ぎ」の文化を育てました。「心は形を現し、形は心を規制する」と神道は教えます。身を常に清める文化が水に恵まれた国ならではの朝の洗顔、夜の入浴の風習であるように、神社への参拝は心を清めるための文化だといえます。心が清らかであれば、美しい言葉しか口から発せず、争いも起きません。皆さまもぜひ、この一年を清らかな正しい心でお過ごしください。

大道●身にしみるお言葉です。2016年も当行は清く、明るく、正しく務めてまいります。本日はありがとうございます。

年、その撮影が当社や県内の宿泊施設、学校などで1週間ほど行われて話題になりました。この熱気を滋賀の観光振興に役立てていただけよう、当社もできる限り協力したいと思っています。

大道●古代に大津の礎を築かれた天智天皇ゆかりの近江神宮が、21世紀の大津の振興を担われる。不思議なご縁を感じます。私は近江神宮に事務局を置く「時を守る会」の会長を務めさせていただきます。時間の大切さを啓蒙する活動に取り組んでいます。これも、日本初の時計である漏刻をお造りになられた天智天皇の偉業がご縁です。

佐藤■漏刻は一定速度で流れ落ちる水